

加  
加

215  
2057  
32

準  
貴

1



りゆか



幸四



格うまたり乃先祖とくうく<sup>た</sup>河ねり小天津

こや孫乃みしと<sup>た</sup>り三十六代の後未みけこれ

まあうと<sup>た</sup>して下ふうくれね<sup>た</sup>下たりあうらよ

みげこのまやう<sup>た</sup>君の<sup>た</sup>後<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>め<sup>た</sup>く<sup>た</sup>ぶ<sup>た</sup>く<sup>た</sup>し

五下乃<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>り<sup>た</sup>し<sup>た</sup>と<sup>た</sup>城<sup>た</sup>わ<sup>た</sup>り<sup>た</sup>中<sup>た</sup>う<sup>た</sup>よ<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>く<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>つ<sup>た</sup>し

世<sup>た</sup>そ<sup>た</sup>孫<sup>た</sup>と<sup>た</sup>人<sup>た</sup>る<sup>た</sup>ん<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>わ<sup>た</sup>し<sup>た</sup>て<sup>た</sup>り<sup>た</sup>ふ<sup>た</sup>も<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>く<sup>た</sup>後<sup>た</sup>た<sup>た</sup>り

のあ<sup>た</sup>さ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>け<sup>た</sup>る<sup>た</sup>び<sup>た</sup>城<sup>た</sup>う<sup>た</sup>く<sup>た</sup>と<sup>た</sup>う<sup>た</sup>ん<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>んの<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>や<sup>た</sup>う

う<sup>た</sup>い<sup>た</sup>と<sup>た</sup>そ<sup>た</sup>う<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ん<sup>た</sup>す<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>と<sup>た</sup>し<sup>た</sup>せ<sup>た</sup>た<sup>た</sup>み<sup>た</sup>と<sup>た</sup>後<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>あ

な<sup>た</sup>う<sup>た</sup>り<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>と<sup>た</sup>け<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>い<sup>た</sup>又<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>よ<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>う<sup>た</sup>一<sup>た</sup>味<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ん

家よりするいめくもかぬきし  
 とうがき  
 るうりきみげこのまもうらちよりんれ  
 せんぞ城ううりてまらうありきう東海<sup>あまみち</sup>わ  
 社さち乃國よまらあふありひとらん  
 うむ北ゆふる乃雲ふけあう海城を請れ  
 うらよりす急よさたそくたもあうあうら  
 東海やむうらのあよくうりまのあうりふ  
 り不里してあう一書うせ給ひきまはあうり  
 乃聖人見あうせう一海のまやにすめたとそ  
 臣部孫さとしんヤきうらう一うまもく落<sup>おち</sup>物<sup>もの</sup>建<sup>た</sup>

のうふとん<sup>農</sup>夫<sup>夫</sup>田<sup>田</sup>舎<sup>舎</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>ん<sup>ん</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>い  
 とぬ一けの乃よまいどめれひまんの田<sup>た</sup>城<sup>じやう</sup>へ  
 りう乃くまの業<sup>ごう</sup>城<sup>じやう</sup>とりきんそく北<sup>きた</sup>くらひ  
 とひくるまてりう一あう孫<sup>そん</sup>とくまうりん城<sup>じやう</sup>  
 去年<sup>こぞ</sup>ハ今年<sup>ことし</sup>よなうりありあやめまあう  
 すこ給<sup>たま</sup>ふくしてあまいゆい給<sup>たま</sup>ふりりまり  
 あまいくもせのるりかまはりうあまい物<sup>もの</sup>集<sup>あつ</sup>給<sup>たま</sup>ふ  
 るうらうらうのまもあまいあまいあまい  
 給<sup>たま</sup>ふ



ほとふそのとーもうらまきい　なつれゆけ  
 そみお月之甲の又月のあはき、月よ圓れくさ  
 とりおりそはふりこりーや着きこをあの田  
 乃あせよくーあくあ成業のあををわらうー  
 ちうての絲よとちとぬくめま<sup>かうぶ</sup>婦とりおそく  
 らき成とらまよ付くる人のものさう人むま  
 成らあひてひめもをなくくさうさうくさ  
 ちらとさうらふりあをのさうとさうあう  
 一川の三川祿東里うま成ららふをさ人さう  
 ちのまらうのこよを紀うさけ守なうふう

けきん



ちくちくしそきさちらふりかまは城とりて見  
 たまふりあかりまのうらふりやくし  
 るうまてありりーまたうらまらうやとてけ  
 ぶふそへてそそそそららうあをまん海の時  
 波波もや十六ふるり終ふうらまのまらうれ  
 時ふのうぬどんよやのうきかまは庭れま  
 よさくれあくく京へのありあふそくあま  
 や大内乃庭の小茶をきよあまーふさやうしれ  
 るんまは流しとおかくの志ちやうまのなうふ  
 いけり記ま何とありうらうらハ庭れまて

と申すとく人あはれ申初たりうんあつた  
さう乃あらんあつたのさうとけ大長のさうに  
事一成ぬるうへ今いづく守備一文中ふとく  
まりてみるくとあつたう一申せとてめんせう  
まやうにめんせうと申す大長をまふ證ありて  
文中のまうりりたるうんくは成給ふらと  
りう乃やう乃ゆく一さよ うりけりまに  
そら乃入廉の大位とて大熟かの長下あり君  
乃清位哉うとひと申す我らうりるんと  
たぐむびるめて下の大事とて東山のおくよ

あつた乃あつたくともいづく大木のさうあつた  
せんきひさうふとさきとぬりのりりのあん  
とけ大長乃たまふ給付うとくさうのあん  
きん也らうと申すあつたさうとてめんせう  
あつたうと申すうりのさうの時さうのあつた  
うり一乃乃うまよとたんとさうと申すひうらひ  
給くともぬ入廉の大長を三年此事をうて  
志里はらさき成たんとさうと申す文中一は  
おはすをさういころそのお後りうらうらと申す  
さうりせおら申すさうらるさうと申すなり





りりきりーはき給ふくしてらり君親某の海  
 へん家門乃もんじやう時次えあきよきり  
 とさくめひさりう海さり杞りめさし中よあ  
 ともうらとけわねもりりよせて座すくくと  
 うこもやと思ふうせのあくちりーもてる  
 目と確てもんー一せいのかり張備るひへ備  
 へんま甲乃上トとけせ給りね人さるーん  
 ともりりかひ思ひさせ給りねまらう縁給り  
 あせのませりりりのあんのぬーへん備  
 張片のさるーあさふーまのまもるうん



よめい今城切さうりなり親子よりる此對面を  
 今更斗乃事一るり一 入麻の居を此此  
 をゆりりお建と切く建たり いおかびより  
 世流しと世なきふねとらき路ひくらる海原り  
 たせう一ひよりそう路終人路おとせさう  
 るくりそ路中一うちうまてそらせひのるし  
 あま一よう一ひげと路まどととめよ路お  
 とくり原りやせ我をゆめ一と思おなりそま  
 とつふと一おひり一異<sup>い</sup>おふらんこも人あり  
 うまめしくとまて路人路とまうせやあり  
 世うまんあまのまうととまんこく此きん  
 ことうと圃乃さうひよめとそひと教交のこく  
 うひ隙をな一まんこく名多勢まうあくい無  
 勝なりあうりとけやせととまうこく此味<sup>い</sup>方  
 おきんそんきんらくとそ二人だけま路まの  
 わりてん城うけお耐うさくとと一る事  
 平路城居こよこ一大地城と城りつとまこん  
 一やく城うら川事こくるうとと城をうて  
 と一うもろう人まてる城のりあうらと此半  
 よまど切く一大地う志さのようけまのまけ

きんあく乃ほまのあすはくししてうんれ  
 きのとそふもきんとうとうこふるさゆく  
 ねんせー、きむほううーあまい人あぐらめ終  
 女成らうのわらひあもやとやうーもとう  
 あまといふきんそん成むこみとらきんそん  
 こけまはまのちまはらもゆたもくくゆあ  
 まうのひあもあみらまらととめきむあく入  
 しそはこもけきまとうとのきんらくとあふ  
 うやうにらうう人らう及とねんやとそ兄弟  
 けきとそはこもけきまとうとのきんらくとあふ  
 けー兄弟成らうはけうの娘字とやあゆらう

海さあきひあありちきり成あむふるんうら  
 るとら子まていあうらるき親子まりる兄弟  
 うもまきうまうとあゆらうりーさあわうな  
 ういーよまううく成まこうんとむのまー  
 妻ふのう海へも兄弟の者のうまううくや思  
 きん厚うくもあうあうはりまううくくあめ  
 心海くむんまあううと福うひかりまうう  
 け中世海人してまううまううらうまううふ  
 を付しこまううらうよあふこもるゆんうい

あしとたふかりひきもしつふ縁らふとくうら  
海一志うりとたひつとそ月比まらふはけう人殺  
な乃けうい城なりかり今まて玉殖あらし事  
を共るんららうきこうあうたりむめろてちう  
乃あうをまた命をるんちおあさふうざり  
あううみ押めくにあそのあふうふいとうけ  
ううまうらうむうきうよのまうふいとちうこ  
えそくういすてきんうんになうと川き縁  
あうもき也とたふ海志おとの縁ひてうう  
ひ縁乃らひひいふらむ城きくらるはとらりお

みやげよとくをうみやげきんそんりきまひ  
終ふ海さうこののうんきむよ海うう命を惜  
かへするんちうああくのたえうりと知あり  
きんうもしきうあああううううすき  
そくああもあうこののうんきんよてうらまら  
あうきよなり終ふ海ゆいんよ海らあう  
きんうひううあう城つきあううれ城かりう  
はくう海志ゆのくらあう城きんうくう  
しきんうううあれとあ甲きんうううあ  
ああああああああああああああああ



物りきよまんとしほらひ二山うりせれお  
 きりやーきの思ひとる一ほくお縁とひろひ  
 ほくやとみつこまーてなうりきんおころい  
 乃か縁のこままきひこ思のひきれうら  
 哉と月とおころいのか縁ふさーほく梅さ  
 ひうまらうせねとりほくろふよあこり



夢黄赤白乃曰名のあ〜にを〜葉わ〜とま〜  
 せ〜りげまは梅子り〜あ〜をせ〜ひひ〜お〜て  
 城のま〜むら〜もの〜る〜ま〜んあ〜くのほ〜の敷  
 城はく〜し〜これま〜りあ〜り〜と〜んせ〜と〜を  
 そ目もよ〜を〜ら〜ま〜りりあ〜ひ時〜るま〜は〜と〜  
 あ〜と〜は〜う〜あ〜と〜縁よ〜て目〜ら〜〜と〜のま〜  
 てあ〜るあ〜川〜る〜と〜を〜と〜た〜ま〜い〜を〜ら〜よ  
 あ〜りりり日城志り〜と〜く〜ま〜れと〜ま〜縁記縁ひ  
 ま〜りま〜れと〜ま〜お日光を〜あ〜と〜ま〜て山れら〜ふ  
 り〜り目〜又巳の割よ〜ら〜り〜く〜ら〜か〜ら〜ま〜完城

まで〜り〜よ〜く〜あ〜い〜城と〜め合城と〜と〜め  
 てあ〜け〜人あ〜ら〜〜ら〜め〜あ〜い〜ま〜く〜お  
 ほ〜りりな〜れだ〜り入目と〜を〜すま〜ひひのま〜は〜は  
 代〜りりま〜と〜ま〜あ〜りま〜ら〜ら〜れひ〜ま〜く〜は  
 佐幸〜るりま〜りま〜ら〜ら〜ら〜乃ま〜ひと〜すま〜ら〜みれ  
 ひあ〜のま〜なりま〜ん〜ん〜ん〜ら〜く〜あ〜ら〜く〜そ〜ん  
 あ〜のま〜りま〜也ま〜ん〜あ〜ら〜く〜い〜や〜た〜ら〜ま〜ま〜ん  
 あ〜ら〜ら〜く〜は〜作ら〜ら〜く〜い〜ら〜ら〜り〜と〜す時〜を〜我〜と  
 女み〜ら〜ま〜ら〜つ〜ま〜ま〜ら〜み〜た〜ら〜ら〜ら〜の〜い〜ら〜ら〜  
 くら〜ら〜の〜あ〜ら〜ら〜ん〜時〜せ〜ん〜ひ〜城〜く〜ま〜と〜ら〜ま〜ま〜ら〜ら〜

けふもゆりてをわりのんあまを日めしうら  
 らはとうりどげ終ふ事もあるく今なえだん  
 うりそりてうこそそを聲よまきつらうや  
 うまたりうらう及もせ終りた芸目子ガの笑ふさん  
 ろうまき一せつあまうのた理あてあろまひ  
 とらゆきうもた入麻北大長も天下をうら  
 をむらのまあまをまをたの屋守けきとたり  
 あろまうのうらかのあん城屋とくとうこ  
 せ終もそのまはあまうのまこれまうちよ  
 おうあくーのうしううとせらもうういせ

親越のまう城屋りまやうまうとりのりあま  
 城こあくまへと大親城をあままこーはと  
 ろま終ひきらにゆめたあまううともあく  
 あふむ乃さうき義一あまあ城一のそそよ落  
 うら又あうりをあらんあまはさうきこのあそ  
 けえ一川ありそまびけえと申あゆといるら  
 子ゆそや まよそけえよえたまゆありやと  
 け乃成えいゆらさ川ちやうむらう無常おらの屋まけ  
 う美備ふひをまらけえ也 ちまらけけえい  
 しやくらまうくとくのまきとるうせり せん

こげだつ乃ちくちあうとくたまうれあめらん  
 ちやうあめりんのとそあしあやうこそあう  
 きこころ乃成よ 今のさうきせりそはえあ  
 まうろうのめいあんちあうめらうれはくはえ  
 あり照日月あきらうみゆきませとあう  
 考較のしこくたまひはえよむらまきたとり  
 ゆくあうりゆくよ名付てめいあんちあうと  
 尸なり 我もめらうよあう守ともははえと  
 つまはくまうこそく乃ゆるひはくしてあふこ  
 ゆうさきとてしと思ふあうとあうと下向

乃らうりよりもこのはえとつまはくはくはるの箱  
 氣小目城あそはしうとそれたとりあ里紀  
 終ひきりりらかあのみし中流して人とたえ  
 あうとらうりし何とらうこくませ終ふらんお  
 そらうしやとそ月心とまら人のやきらひうの  
 切またらりとやハむこちのくふに即録さう子  
 あうてんふ屋あんのそのるらうま甲へめ  
 りいされまあよのありて下をけか守らうふ  
 ようとらうり升ふうてくまうもくふなりこ  
 くのそとりのひけま入麻をふりし思ふらう



とら川ろくふせいのわりあろいあも川さ下旬  
 るらふりまたりりらか張あやうーぬろ里よ  
 尖城をうせりらかのちんとうままたりゆよと  
 わいため終ひにうまよりのあきこれまうこ  
 いとけろくゆーま守をめのこりりさきあう  
 せそあうり城と張り中時むのりうせ終んも  
 るふとそその子あるうもらそあまへくくと  
 おあせけまけさうなくあまーさうすん  
 とそりい志きんさう里の尖れなうへらり  
 終り終りりらかば中ゆらんしそゆこと

いりりりあるううーあうんあうさうさうさ  
 うとさーのひてん終ようまらりいさうさ  
 わうさうさうさうさあけくそんあうま  
 終よゆふはあふひまーく城終ようひなき  
 あふととりあけくたひさのうんーあうすん  
 う海たりりさき終ひあいのうをそたひそ  
 うかあうさうさうさゆんうああーああさ  
 くりゆりーはあはらふあさまーやあうり  
 おんあをせあうるうたあけてうひ終りぬ  
 あひとくとせんあいあうらうのあうまあ

すも何れいこのも中よめらういあふ  
 うめーやあも一子のああまたりく  
 じろらうき方こそさ記うらわさひと  
 まんとこそおのひあふしんおんうらまれなり  
 よらうとすけね奉のむきんさよひきて  
 びひるさうき身ととありてうんやんこと  
 ちあひさ地ふうてううていあう建路ひ  
 き建たうら人もや人もそととあからぬ人そ

ふのき



らりあめのもーおらんしーてあーいー  
や穢すーまうそくあーまひきんそまもあ  
我乃のりりあうそのう人の備しと成うこ  
うり今もち後まうこひのそち成とあ  
まうーむるーと思ふそやうらとけさせ給ひ  
きりうまはりゆまうこつとおかーめーひん  
ふよふ海なり清用さあまとうらへそうもん  
中さうくみしとえらんまーくしてあゆむ  
より内くここのまなまの異國よあうんかの  
ひらうとまういされたりひらうくまいお理を

あまのうのころの義地はまとうらへーと  
まうせ給ふまよまのころのまひとあ  
う海たりまうりふさんありなまうそく成  
とも大幸ーのせんまはひとせんそくなく  
てうるまうまうとあひのちまうーとらひ  
まうらまうらりのましと義地あうりよりを  
あうままひはくろひまうーのままひとあ  
あまうらうら海のあさあうらまあまあ  
あまゆんれんあまよとあまうあまひとあ

望うまはあちうくたまりきねてまじりり  
 しやくしそのとあーまむくまむくままたり  
 雲くも霞がはのきささーとさくらしくよちのあり  
 床乃ものこよーやくぬあゆーしこまり  
 清おとうちあふあーあーさるあこぼれ  
 押らむあゆと知らんこい愛とせん  
 さも張けすらとあーさる人こまゆー  
 うりきんあんなをとなげく人もありふきり  
 まとえくらんゆーしてあまこりらみうま  
 くり中座よあまとのせんーなりあよまも

くらえ孫らぬ中座あまこりらみうま  
 付くうまよこりまーくよちのありまそま  
 くりか乃座ちくころ入廉いひさ張を  
 立ちまよりのゆとまむくまーわけむとれ  
 あれーありう海りいらりか張をーわけ  
 びい志うまひきりまそまゆゆ座ざいあまの毛  
 張まぐあらまをそれまもさるーく成るうけ  
 かうまよりあまをさうられあーうりなんと  
 思台三とせう同あさいころ あまあ眼とくらまの  
 とんむうまのあまの下のよりえをさん

乃うまよどおれ制うらり終ふと忍びあうは  
 りらうのあんのんくひるあえと海ら終あら  
 じより



くひもなきむらりぬらりとて海をせん  
とまきくまたり波を一のけめくのな波あ  
下らぬとありのやうなきんとぬき波入  
くまらぬとありと波あし録りしつぎ切は  
はいた志くまき水枕めそしよきくさ  
た君を切のくまきあしつぎのまきしは  
りくまらぬとありと波あし録りしつぎ切は  
くまらぬとありと波あし録りしつぎ切は  
くまらぬとありと波あし録りしつぎ切は

